

JAPAN NOW

観光情報協会

Non-Profit Organization JAPAN NOW TOURISM INFORMATION ASSOCIATION

東京都知事が認証した「都市・環境・観光NPO」が発信する隔月刊情報紙

第31号A 発行日2005年9月21日

Contents

大九州圏観光フォーラム	_____	1
JN協会4年の歩み	_____	2
JN協会4年の歩み ②	_____	3
末吉北九州市長、編集後記	_____	4



10月16日太宰府市にオープンする九州国立博物館。東京、京都、奈良に次いで日本で4番目。(パンフから)

巻頭言

福岡で「大九州圏観光フォーラム2005」を開催 5人の講師が経済再生・都市防災・新幹線の 早期全線開業・新北九州空港の開港で提言へ

JAPAN NOW観光情報協会（東京）と九州支部（福岡市）は、九州観光推進機構との共催により9月21日午後2時から福岡市の西鉄グランドホテル「鳳凰の間」で、「大九州圏観光フォーラム2005」を開催する。JN協会の松尾道彦・理事



田中会長

長、九州支部の長尾亜夫・支部長（西鉄社長）および九州観光推進機構の田中浩二・会長（J



長尾九州支部長

R九州会長）が主催者挨拶のあと、山崎広太郎・福岡市長らの来賓挨拶が行われる。

このあと講演会に移り、日本貿易振興機構の渡辺修・理事長ら5人の講師が「魅力ある九州圏づくり」について講演、参加者に幅広く提言する。

講師とテーマを紹介すると、

渡辺氏（下写真）が「九州の経済再生と観光」について基調講演し、このあと九州大学の川瀬博



・大学院教授が「都市防災」、JR九州の石原進社長および鉄道運輸機構の北川隆・九州新幹線建設局長が、「九州新幹線の早期全線開業」、北九州市の末吉興一市長が「新北九州空港の開

港」について現状を分析し、将来を展望する。午後5時30分から「プレジールの間」で講師を囲み立食懇親会を開き、散会する予定。

11月に北海道支部総会 支部長候補はJR会長 福川氏らが「経済再生と観光」「新幹線」で講演

JN協会（松尾道彦・理事長=写真）は、協会7番めの北海道支部（札幌市）を開設する。北海道から九州まで全国展開が進む。11月8日午後3時から「ライフオート札幌」で約200名が出席して「北海道支部設立総会及び記念講演会」を開く。「北海道観光連盟」（会長：我孫子健一・元北海道副知事）との共催で開催し、支部長にはJR北海道会長の坂本真一氏の就任を提案する。来賓として北海道知事の高橋はるみ氏、札幌市長の上田文雄氏らを予定している。当日は内外経済の論客として知られる電通顧問の福川伸次氏（元通産事務次官）や照明デザイナーの石井幹子氏、国交省総合観光政策審議官の柴田耕介氏、鉄道運輸機構の菊池一成・北海道新幹線建設局長による講演会や懇親会が行われる。



福川伸次氏

北海道の官民が35年前から誘致に取り組んできたフル規格の「北海道新幹線」新青森～札幌間360キロのうち新青森～新函館間148キロの工事が去る5月に着手され、10年後に開業すると東京～新函館間は3時間40分で直結し、その経済波及効果は4901億円が見込まれる。また、7月14日には知床半島がユネスコの世界自然遺産に登録され、北海道の経済再生や観光振興に大きな効果が期待されている。当協会は、こうした北海道の新しい動きに注目し、支部を新設することにした。

JN協会4年の歩み①

2001年4月発足したJAPAN NOW観光情報協会は、5年目に入り順調に活動を展開しています。第4回通常会員総会にあたり、これまでの歩みを振り返ってみます。

JN協会の活動目的

21世紀は世界的な観光交流が拡大し、「観光の世紀」と言われています。政府も、官民一体で振興に取り組んでいます。JAPAN NOW観光情報協会は平成13年4月に「都市再生・観光振興・環境保全」を目的としたNPO法人として石原・東京都知事から認証され、活動しています。日本が観光立国として発展するためには、従来の観光振興だけでは限界があり、都市の再生、活性化による地域経済の振興や環境保全が必要です。

当協会はこうした理念のもと、市民レベルの「第三の社会セクター」(NPO)の立場から既存の「第一の社会セクター」(国、自治体など公的機関)や観光、鉄道、航空、電力、ゼネコンなどの「第二の社会セクター」(営利法人)が発信する都市再生・観光・環境保全情報の補完に取り組み「賢い旅行者・消費者」の育成に務め、国や地方自治体、経済団体への提言も行い、成果をあげています。

JN支部の設立

- ・新宿支部(2001年4月、片山文彦・花園神社宮司が支部長)
- ・北陸支部(2002年10月、水野卓哉・北陸鉄道会長が支部長)
- ・立教支部(2003年12月、支部長は学生会員の持ち回り。)
- ・九州支部(2004年3月、長尾亜夫・西日本鉄道社長が支部長)
- ・中部支部(2004年7月、須田寛・JR東海会長＝当時＝が支部長)
- ・神戸支部(2005年3月、岩田弘三・神戸商工会議所副会頭が支部長)
- ・北海道支部(2005年11月8日、札幌市で設立を予定。)



写真上(発足メンバー) 下は(神戸支部発足総会)

JN協会の活動実績(講演会)

- 第1回:「国際観光を楽しむ」 平成13年10月22日(月) 基調講演:向山秀昭氏(国際観光振興会長)
- 第2回:「都市の活性化と国際観光」 平成14年1月31日(木)
講演者:須田寛氏(東海旅客鉄道会長)、カトリーヌ・オーデン氏(フランス政府観光局長)
- 第3回:「都市の交流と国際観光」 平成14年5月21日(火) 講演者:羽生次郎氏(国土交通省国土交通審議官)
- 第4回:「北陸新幹線と地域振興」 平成14年10月4日(金) 於:金沢市
講演者:松尾道彦氏(鉄道建設公団総裁、当協会副理事長)
- 第5回:「内外経済事情」 平成14年11月21日(木) 講演者:渡辺 修氏(日本貿易振興会理事長)
- 第6回:「激動する航空業界の現状と今後」 平成15年5月30日(木) 講演者:野村吉三郎氏(全日本空輸会長)
- 第7回:「江戸文化と大道芸」 平成15年 8月10日(日) 於:新宿・花園神社 シンポジウムのパネリスト:
片山文彦氏(JN協会新宿支部長)ら4名。
- 第8回:「観光立国と箱根の魅力」 平成15年9月4日(木) 基調講演者:中村徹氏(日本観光協会会長)。
討論者:山口昇士(箱根町長)、金澤悟(国土交通省観光部長)、
福川伸次(電通顧問)の各氏。
- 第9回:「九州新幹線の開業に向けて」
平成16年3月1日(月) 於:ホテル日航福岡 講演者:高山博文氏(鉄道運輸機構九州新幹線建設局長)
- 第10回:「日本経済の再生と観光立国」 平成16年5月27日(木) 講演者:福川伸次氏(元通産事務次官)
- 第11回:「中部国際空港の開港と観光交流」および「愛・地球博の成功を目指して」
平成16年7月15日(木) 於:名古屋市 講演者:平野幸久氏(中部国際空港会社社長)、
中村利雄氏(万博協会事務総長)
- 第12回:「観光立国と国の安全」 平成16年12月16日(木) 講演者:国松孝次氏(元警察庁長官、前スイス大使)
- 第13回:「21世紀は名古屋圏の時代」 平成17年1月25日(火) 於:名古屋市・銀行協会ホール
基調講演:福川伸次氏
パネラー:奥野信宏、安原敬裕、須田寛、水尾衣里の各氏
- 第14回:「サッカーと観光立国」 平成17年5月24日 講演者:鈴木昌・Jリーグチェアマン(JN通常会員総会のあと) 於:ホテルKKR
- 第15回:「大九州圏観光フォーラム2005」平成17年9月21日(予定)。福岡市の西鉄グランドホテルで。渡辺修・ジェットロ理事長ら5人講師

JN協会4年の歩み②

JN協会の活動実績（見学会）

- 第1回： 山梨県都留市の山梨リニア実験センター 平成13年11月8日（木）。
JRマグレブ・リニアカーの試乗会。丹羽理事長以下15名が参加、
時速450キロを体験。
- 第2回： 東京電力柏崎刈羽原発など。 平成14年8月24日（土）、25日（日）
参加者25名。協力：原子力発電技術機構
- 第3回： 石川県・能登空港 平成15年7月8日（火）
7月7日開港した能登空港見学。丹羽理事長、水野・北陸支部長ら
10名が参加。
- 第4回： 都留市リニア実験センター 平成15年10月8日（水）
松尾副理事長や電力、ゼネコン、鉄道などの団体会員ら30名参加。
時速500キロを体験。
- 第5回： 横浜市みなとみらい線 平成16年1月21日（水）
2月1日開業を前に、丹羽理事長、松尾副理事長ら30名が参加。
- 第6回： 九州新幹線（鹿児島中央駅～新八代駅） 平成16年3月1日（月）
3月13日の開業を前に、丹羽理事長、松尾副理事長ら20名が試
乗会に参加。
- 第7回： 開港前の中部国際空港 平成16年7月15日（木）。
松尾理事長ら約20名が参加。
- 第8回： 建設が進む神戸空港 平成17年3月17日、松尾理事長ら20名が参加。
第9回： 開業前の「つくばエクスプレス」試乗会。平成17年7月27日、11名参加。



リニア実験線



開港前の中部空港管制塔で

JN協会の活動実績（イベント）

【大道芸シンポ】 2003年8月10日午後5時30分から、江戸開府400年事業に協賛し「市民 手づくりの江戸東京 まつり」を、東京・新宿の花園神社で開催。源吾朗さんの大道芸披露、今村昌平監督の映画「ええじゃないか」のさわりを上映、それにまつわる大道芸についてシンポジウムを落語家・古今亭菊輔さんが司会。100人が参加し江戸情緒を楽しんだ。
なお8日には、ロボット博士で有名な橋本周司・早稲田大学教授の講演「ロボットが宗教を変えられるか」が行なわれた。主催は花園神社。

【国際交流】 2004年10月23日、JN協会と富山県新湊市がイタリアのティボリ市長と助役招待、新湊市での「新湊産業海鮮まつり」に参加、保育園児らに迎えらる。真ん中は新湊市長。



2004年10月25日、東京・プレスセンターで「ティボリと新湊の挑戦」と題する国際観光シンポジウムを開催した。マルコ・ヴィンチェツィ・ティボリ市長、分家・新湊市長、須田・JN協会副理事長、鷲頭・国交省観光審議官、大島悦子の各氏が「イタリアの世界遺産都市と観光立国の街づくり」について討論。参加者約150人。

平成18年はじめ、ドイツの市長との交流を予定。

JN協会の活動実績（研究会）

国土交通、旅行、エネルギー問題、都市再生、環境の5研究会を開設。副理事長を座長とし研究活動を実施。
(1)「観光の価値・評価」の研究会 2002年1月25日～2002年11月20日まで9回。(2)「旅と危機管理」セミナー 2003～2004年末まで9回。最終回は2004年12月16日、国松孝次元警察庁長官 を迎え「観光立国と国の安全」という題で、講演。(3)「観光立国セミナー」 2004年～2005年実施中。会員だけでなく、関心のある方の参加を歓迎。いずれも、製本しJN協会に保存。会員企業、個人会員の閲覧は御自由どうぞ。

JN協会の活動実績（提言）

JN協会は提言も積極的に行っている。平成14年7月リニア中央新幹線の実用化について小泉首相に提言した。丹羽理事長（当時）は、平成15年1月東京駅周辺に「観光総合案内センター」の開設を、平成15年10月には「江戸城再建」を提言し、話題となった。今後とも研究会活動の成果を踏まえ、積極的に「観光立国」等に関する提言を行う予定である。

新北九州空港で飛躍を！

末吉興一北九州市長が語る

1987年、北九州市長に当選、以来連続5期現職にある。当時は最悪の不況のさなか、八幡製鉄所に代表される重厚長大な北九州市の産業は厳しい状況に見舞われていた。その打開と発展のため長期構想を策定したのが、「北九州市ルネッサンス構想」。



水辺と緑とふれあいの“国際テクノロジー都市”

を基調テーマに

- 1 緑とウォーターフロントを生かした快適居住都市
 - 2 健康で生きがいを感じる福祉・文化都市
 - 3 あすの産業をはぐくむ国際技術情報都市
 - 4 海にひろがるにぎわいの交流都市
 - 5 未来をひらくアジアの学術・研究都市
- を、目指す都市像に定め、今年が第三次計画の最

終年次となる。

北九州市の観光資源としては、小倉城や関門トンネル若戸大橋などがあるが、根が「モノ造りの街」であったためか、観光客を迎え入れるウエルカムマインドにやや欠ける面があった。

新たな観光資源として、スペースワールド、95年の門司港レトロのオープンがあげられる。1998年には松本清張記念館がオープンした。

一方、環境問題で言えば、工業地帯につきものだった公害を克服、1997年には北九州エコタウン事業が国の承認を受け、世界で唯一の総合環境コンビナートを形成している。いまや、その産業観光として、中国・ベトナム等からの観光客来日の一助として注目されつつある。

また、昨年11月「東アジア経済交流推進機構」を組織し、地域版FTA（自由貿易協定）を推進している。なかに「観光部会」も設置されている。

来年3月開港する「新北九州空港」は、東京と上海が等距離という立地に恵まれており、将来は24時間使用も可能。観光振興の強力な援軍となろう。（杉 行夫）

会員名簿

（敬称略）個人会員は別刷りご参照

名誉顧問：松山善三（映画監督）

理事長：松尾道彦（日本海事財団会長、前日本鉄道建設公団総裁）

顧問：丹羽晟（前理事長、日本空港ビルデング相談役）

副理事長：白澤照雄（JN協会事務局長）、岡村進（小田急電鉄顧問）、橋元雅司（元国鉄副総裁）、橋爪孝之（株JALUX相談役）、大島慎子（ドイツワイン基金駐日代表）、小竹直隆（元JTB専務）須田寛（東海旅客鉄道相談役）

支部長：片山文彦（新宿支部）、水野卓哉（北陸支部）、田久保万里夫（立教支部）、長尾亜夫（九州支部）、須田寛（中部支部）、岩田弘三（神戸支部）

【団体会員】（2005年7月20日現在）

（株）朝日ネット、（株）アドバン、荒井建設（株）、アンデス電気（株）、安藤建設（株）、池田煖房工業（株）、（株）伊勢丹、（株）エスシー・マシーナリ、（株）大林組、（株）奥村組、小田急建設（株）、小田急電鉄（株）、（株）小田急トラベル、鹿島建設（株）、鹿島道路（株）東京支店、大阪国際空港ターミナル（株）、関西電力（株）、九城企業（株）、（株）九電工東京支店、九州電力（株）、九州旅客鉄道（株）、（株）熊谷組、（株）グリーンキャブ、群馬県、京浜急行電鉄（株）、（株）耕人舎、五箇村（島根県・隠岐の島）、国光施設工業（株）、佐川サポートサービス（株）、三協アルミニウム工業（株）、（株）三普旅行社、清水建設（株）、（株）ジャルセールス、（株）JAL-EDFS、（株）JALUX、（株）JTB、（株）ジェイアール貨物リサーチセンター、消音技研（株）新菱冷熱工業（株）、住友電設（株）、（有）西洋館センター、静和堂竹内印刷（株）、（株）銭高組、全日本空輸（株）総合パーキング建設（株）、第一交通産業（株）、（株）大気社、大興物産（株）東京支店、大成建設（株）、大成サービス（株）、大成設備（株）、大成ユーレック（株）、大鉄工業（株）北陸支店、大日産業（株）、高砂熱学工業（株）、（株）竹中工務店、（株）丹青社、中部電力（株）、電研工業（株）、東海旅客鉄道（株）、東急建設（株）、東京急行電鉄（株）、東京国立博物館、（財）東京観光財団、東京電力（株）、東光電気工事（株）、東芝エレベータ（株）、東北電力（株）、トーヨーカネツソリューションズ（株）、戸田建設（株）、名古屋鉄道（株）、西日本鉄道（株）、西日本旅客鉄道（株）、（株）西原衛生工業所、西松建設（株）日墨ホテル投資（株）、日本オーチス・エレベータ（株）、（株）日本海コンサルタント、日本空港ビルデング（株）、（株）日本航空インターナショナル、（財）日本交通文化協会、（社）日本添乗サービス協会、ネスレジャパングループ、箱根町（神奈川県）、箱根建設（株）、東日本旅客鉄道（株）、（株）日立ビルシステム、（株）ビッグウイング、福岡空港ビルディング（株）、富士機材（株）、藤長電気（株）、富士通（株）、プラネットワークス（株）、北海道旅客鉄道（株）、北陸電力（株）、北海道空港（株）、（株）ホテル小田急、（株）ホテルメトロポリタン、前田建設工業（株）、ホテルマリックス、マイナミホールディングス株、三井住友建設（株）東京建築支店、三菱電機（株）、（株）ミルックス、（学）森谷学園、（株）山武ビルシステムカンパニー、有楽土地（株）、（株）USEN、横浜貨物総合（株）、横浜ビル建材（株）、菱重輸送機エンジニアリング（株）、りんかい日産建設（株）

特定非営利活動法人(NPO)

人と都市・観光の地球時代を、市民が支えます！

JAPAN NOW

観光情報協会

東京都渋谷区代々木1-58-13

小田急代々木ビル3F

電話 03(5304)9500

FAX 03(5304)5632

E-mail info@japannow.org

Home page http://www.japannow.org

発行人：白澤照雄（JN協会事務局長）

編集長：加納 隆（JN協会理事）

発行部数：3000部 主な配布先：会員、中央官庁、地方自治体、民間企業、マスコミなど

編集後記

‘つくばエクスプレス’試乗記

8月24日の営業開始を前に、7月27日‘つくばエクスプレス’（略称TX）に試乗した。JN協会としては、リニアモーターカー、横浜みなとみらい線そして九州新幹線の試乗に続く第4弾である。全線20駅はすべて高架橋とトンネルで、通勤路線として1都3県（秋葉原 つくば、58.3km）を最速45分で走る。思わぬ発見は、車窓からどこまでも筑波山を見渡せ、緑地も多い。ただ女性用トイレ不足を、女性試乗者から指摘された。課題は多いが、ひとつは地下深く34mに秋葉原駅を建設するような莫大の建設資金を投入して、果たして予定通り40年で償還することが可能か。JRに比べて20%以上の割高運賃は、通勤路線運賃としては高過ぎやまいか。冷静に現実を直視した時、先行きの展望において、まさに運営会社「首都圏新都市鉄道」と沿線自治体それぞれにとって真価が問われることになるに違いない。（近藤節夫）